

## 平成20年度 第3回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成21年3月12日(木) 13:30～15:30

場 所 千葉県立中央博物館 会議室

### 出席者

#### (委員)

明石委員《議長》 片山委員 吉野委員 秋田委員 鵜澤委員 川崎委員  
篠原委員 西村委員 茂木委員

#### (博物館・文化財課)

村山美術館長 佐久間中央博物館長、佐久間現代産業科学館長  
矢戸関宿城博物館長 吉本房総のむら館長 三浦安房博物館長

### 日 程

開 会

博物館あいさつ

文化財課あいさつ

議 事

(1) 博物館における地域振興への取組みについて

(2) その他

閉 会

#### <博物館あいさつ>

県立美術館・博物館の現状について

#### <文化財課長あいさつ>

博物館の市町村移譲について

美術館・博物館に関する基本的な方針の検討について

#### <議 事>

##### (1) 博物館における地域振興への取組みについて

担当学芸課長より地域振興への取組みについて説明

#### [質疑・意見]

委 員:

どの館も、特色に応じて工夫された良い事業を行っていると思うが、中央博物館では学校連携の実施に当たってどんな配慮をしているか。

博物館:

出前先施設のバスを利用したり、学校側がバスを手配し、博物館は出前事業を行う形で組んでいる。

**委員：**

それに関連して、例えば、学校と青少年施設と博物館が協働で移動教室の時間割を作り、それぞれ業務を分担するという構想があると、学校が対応しやすいと思う。

**委員：**

現代産業科学館の平成20年度展示運営協力会実験工作教室では、東邦大学との協働でエネルギーづくりコンテストを行っているが、バイオエネルギーが話題になっており、その関係の展示等を検討してどうか。

インターネットや電子メディアのよりよい利用法に関する企画を考えてはどうか。

**議長：**

只今のご提言の後段の部分については、教育センターの情報教育部門だけで担当するのではなく、良質な情報の選択に長けた博物館と情報教育部門が連携してやってはどうか。

**委員：**

博物館は、研究機能とその動機付けが重要であり、財政的に研究費を十分に確保できない場合、外部資金の導入が重要である。他県の博物館では積極的に外部資金を導入している。外部の研究資金は文科省のほかに環境省や民間にもあり、中央博物館などは大学と共同研究を組むことで科学研究費が採択されやすくなるのではないかと。

ウェブ上に電子図鑑を構築している例があるが、中央博物館は分類学に強いので、ウェブ上に植動物の電子図鑑を作っていくことが出来るのではないかと。魅力あるコンテンツを作ると、アクセスが非常に増加する。博物館関係者の能力を最大限に発揮できるようなものを発信することが、一番やりやすい集客力になると思う。

**委員：**

学術的な面では、そうだと思う。また、一般の方に興味をもって頂くという役割も博物館にはある。

各学年に応じた資料を作成してほしい。

理想的には、親子で来館し、いろいろなものに興味を持ってもらえたらと思う。親子用の解説プリントや解説ボランティアなど、親をサポートする体制が必要である。

**委員：**

総合的な学習の時間は、子どものニーズに応えるため、さまざまな準備が必要。博物館ならば、学芸員に出張解説して貰い、さらに子どもの疑問や興味の拡がり

に应运て貰えるのではないか。

**委 員：**

個人的に子ども一人で博物館に行くのは難しい。やはり子どもの興味がわくようにどこかで機会を設けてあげて、それに基づいて個人的に行くような形でいいと思う。各美術館・博物館では良い事業を行っているので、ぜひ学校でも活用して欲しい。

**委 員：**

子どもたちは、自発的には興味・関心が湧かないので、学習会を通じて関心の対象を発見している。

**委 員：**

外部の立場から見れば、学校も博物館も県教育委員会もおなじ組織に属しているので、連携・相互活用は当たり前だと思う。その一方で、地域振興ってというのは県政の大きな課題であり、知事部局との連携をもっと行うべきではないか。特に、広報課との連携が重要であり、また、それぞれの地域で知事部局が抱えてる課題について博物館がサポートすることも考えられる。

さらに、行政という点では、県立美術館・博物館も市町村と何かタイアップできないのか検討してほしい。

地域振興については、住民との協働、企業との連携推進などで良く頑張っている。企業との連携では、美術館は都市モノレールでのワークショップ、ホテルと連携したパンフレット紹介などを、中央博物館は青葉の森の公園センターとの連携など、多方面で積極的な姿勢が窺える。

**委 員：**

大多喜城分館は、スタッフが少ないからか、学校連携事例が上がっていない。歴史好きな子どももいるので、空堀などの整備によって来館者が増えるのではないか。

**博物館：**

今年は、大多喜城周辺地域でいろいろな事業展開があり、知事部局・大多喜町・御宿町と連携をとり、準備している。ご指摘のとおり、大多喜城分館は人数が少なく、運営は大変であるが、本館と柔軟な協力体制を組んで、繁忙期には応援するよう準備している。

**議 長：**

県立6館が一斉に同じイベントを開催することはあるか。

**文化財課：**

同じ日に一斉に何かイベントを開催するということはないが、それに代わるものとして、県立美術館・博物館の合同企画事業をやっている。今年度は中央博物

館を会場として「房総の仏像・仏画」という企画展を開催した。会場は中央博物館に限定しているが、各館の学芸員が集荷・展示・解説を共同で実施している。国際博物館の日に県立館全館でイベントを実施できれば良いと思うが、日程調整が難しく、今後の課題である。

**博物館：**

千葉県博物館協会の活性化のため、国際博物館の日に関連する事業を展開する方向で検討している。

**議長：**

来年秋に本県で国体と全国障害者スポーツ大会があるが、この期間中に博物館全体のイベントを実施できないか。国体という県の大事業とうまく連携できれば、地域振興として良いと思う。

**文化財課：**

その件については、国体の準備室からも文化の国体が同時に開催されることから、博物館にも協力が求められている。

**博物館：**

千葉県博物館協会に地域振興委員会を設置する予定であり、千葉県博物館協会として地域振興関連事業をいろいろ実施していきたいと考えている。

**議長：**

「観光資源としての有効活用の推進」という項目があるが、来館者が多ければ、それだけ県民が潤う。千葉の文化の誇りを出し、良いストーリー・ソフトを作れば、集客に結びつく。

房総のむらでミュージアムタウン事業をやっているが、他館の参考とするため、どんな効果があり、どこまで到達し、どんな困難があるのかわかりやすい形でレポートしてほしい。美術館・博物館を中心とした文化ソフトによる地域おこしは効果があると思う。

**委員：**

高等生・大学生が博物館に来ないのは全国共通の悩み。小学生は動物。環境や歴史等に関心を持っているが、中高大生になると、マニアしか博物館に来なくなる。将来、リピーターになって貰うには、高校生・大学生当時の来館が重要。熟年層では女性の方が活動的であり、男性には、定年後に地域振興や歴史に興味を持つよう、早めに動機付けをしてあげるような講座をやるべきである。

**議長：**

博物館への関心を喚起するには、教育学部学生や熟年男性を対象に働きかけると良いのではないか。

**委員：**

男性は、職業を離れて協調性や好奇心に富む方が少ないと思う。

**議長：**

このことについて考えていきましょう。

**委員：**

年を重ねると、必ず考古とか歴史とかに関心が行く方が多いが、そういう分野へのアクセスの仕方がわからないということだと思う。

**委員：**

公民館の市民課題塾という講座はすごい倍率で、60歳以上の男性が多い。例えば、講師派遣という形で博物館と公民館が連携してはどうか。

**委員：**

学習成果の発表の場を市町村の博物館等に設けたところ、家族の来場で盛況というケースがあるという。例えば、そういった発表の場を中央博物館等で設けてはどうか。

**議長：**

かつて小学校の学芸会には演劇的な学芸会と美術展とがあり、子どもたちの美術の才能を伸ばすチャンスであった。学芸員的な視点からの学芸会・発表会を、学校や美術館や博物館で開催できないか。

**博物館：**

県立美術館には貸し会場企画があり、主催者側の宣伝もあって、入館者数が多い。

**委員：**

博物館で退職に伴う新たな学芸員採用はあるのか。

**文化財課：**

今の段階では計画はない。行政全体で人員を少なくする方向で動いているので、なかなか厳しいが、そういう方向に努力している。

**委員：**

博物館経験者を、正職員でなくても雇用できればと思うが、そういう制度はあるか。

**文化財課：**

別制度はあるが、就労は強制ではなく、個人の意志による。

**委員：**

博物館の事業や調査研究の質が落ちないようによろしくお願ひしたい。

**委員：**

今のお話に関連して、博物館では職員が緊張感があつて随分アクティブな活動をしていると思うが、県や市町村で職員のモチベーションを上げるような研究費

とかイベント経費の手当をする必要がある。

**委員：**

企画面で、千葉県は他県に比べて当に苦勞されてると思うが、宜しく願います。

**議長：**

房総のむらで「駅からハイキング」を実施しているが、健康ブームに乗り、町探検の要素にあり、良いソフトだと思う。

**博物館：**

「駅からハイキング」は、昨年からは必ず房総のむらに入るコースに設定して貰い、シニア世代の男性が興味を持ちそうな講座・体験演目を取り入れている。小学生が社会科見学で来館した際、100文券を配ったところ、家族での再来館が増えた。今年度は年間28万人を突破する可能性がある。いろいろな計画を職員一丸となって行っている。

**議長：**

幼稚園・小学校時代に博物館・美術館に行ったことで、人間形成にどんな影響があったか。

**委員：**

恐竜など実物大の展示は圧巻。それとオリジナルの魅力。レンブラントの絵を初めて見たときは驚いた。

**委員：**

脳科学者の養老孟司さんが研究生活に入ったきっかけは幼時の博物館体験、千葉大の古在学長は昆虫が友達だったと言っている。

**委員：**

実際に現場に行って触れる、体験するということが印象に残るのだと思う。

**委員：**

昔から美術館に行くのは好きだった。子どものときに親が教えてくれた見方ー展示資料を全部見て、最も印象に残った1点を選ぶーを今でもしている。やはり子どもときの体験は大事だと思う。

**委員：**

私は戦後の混乱で美術館・博物館に行った覚えがないが、海外の学会出張のときは出来るだけ博物館・美術館に行くようにしている。

**委員：**

戦後の混乱で、そういう文化に親しんだ記憶はない。就職し、いろいろな文化を経験して、やはり本物を見ることは大事だという気がする。

**委員：**

小さい頃周りが自然豊かだったので、博物館に来たことがない。しかし、自然の中で体験したことは自分の知識になっている。

子どもは、年齢よって物の見方が随分違う。小学校の場合、来館の機会が多いが、高校は座学中心なので、見方が違う。小中高の各段階で、来館の機会を設けることが学校教育にとっても大事である。

**委員：**

博物館では、多くの場合、擬似的体験を提供しているわけだが、高齢化とともに擬似的体験を受け容れる傾向がある。博物館には、その受け皿として頑張ってもらいたい。

**委員：**

私も、中高大学の際は博物館を意識しなかったが、50代の終わりからは、成熟によって博物館での新発見があった。やはり、中学・高校の時に教員や学芸員による刺激がほしい。成長に合わせた博物館の提供の仕方が大事。